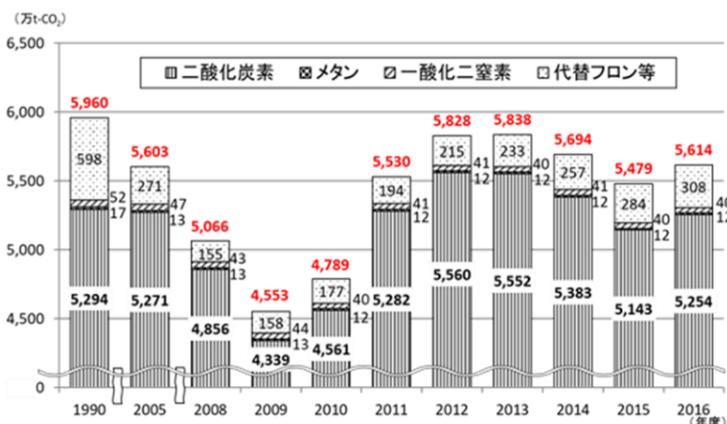


おおさかの環境の状況(概要)

～府域の環境指標はおおむね安定的に推移しているが、地球温暖化やヒートアイランド分野においては改善傾向が見られていない～

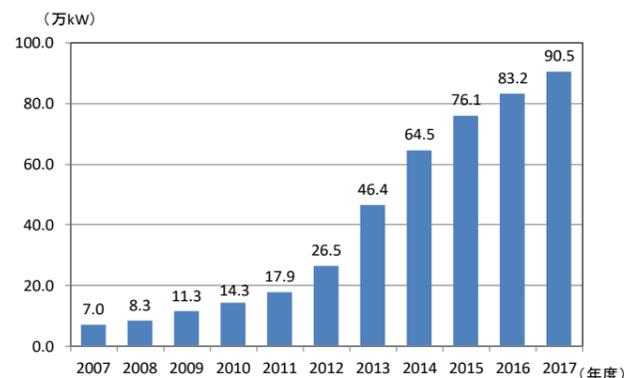
地球温暖化・ヒートアイランド

○温室効果ガスの排出量については、2016年度は、2015年度と比べ2.5%増加している。



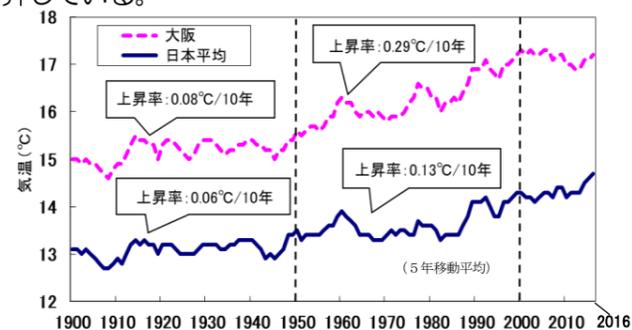
【温室効果ガス排出量の推移】

○太陽光発電設備の導入状況については、2017年度は90.5万kWであり、2016年度の83.2万kWと比較し、8.8%増加している。



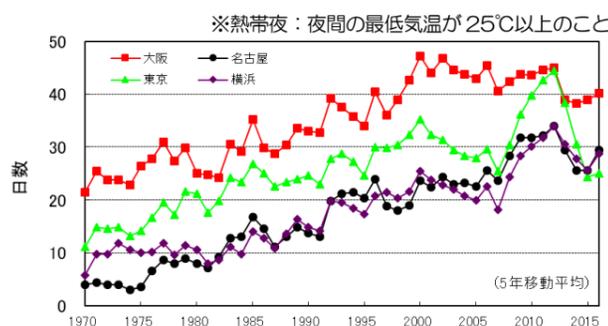
【太陽光発電導入量の推移】

○年平均気温は、日本平均を上回る変化率で長期的に上昇している。



【年平均気温の推移】

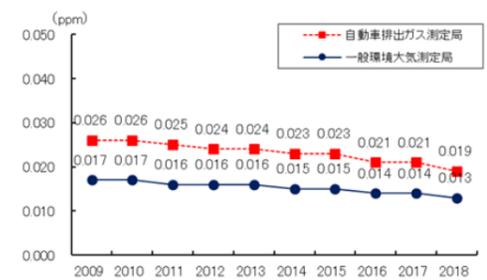
○熱帯夜数は、長期的には増加している。



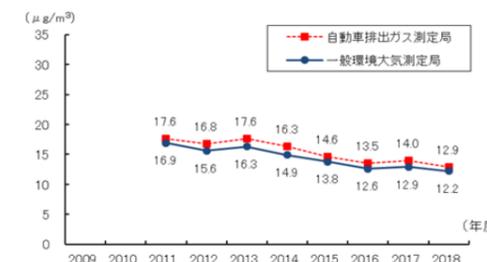
【熱帯夜数の推移】

大気質

○二酸化窒素の年間98%値は環境保全目標の上限値0.06ppmを下回るレベルであり、年平均濃度も緩やかに減少している。微小粒子状物質(PM2.5)の年平均濃度は、緩やかに減少している。



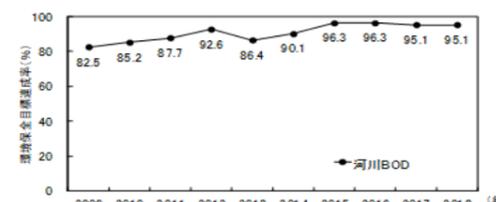
【二酸化窒素の年平均濃度の推移】



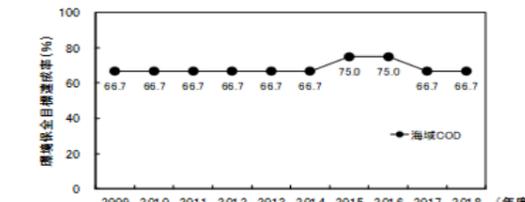
【PM2.5の年平均濃度の推移】

水質

○河川の生物化学的酸素要求量(BOD)は、概ね減少傾向にあり、2018年度の環境保全目標達成率は95.1%である。大阪湾の化学的酸素要求量(COD) (全層平均の値)は近年緩やかな減少または横ばい傾向にあり、2018年度の環境保全目標達成率は66.7%である。



【河川のBOD環境保全目標達成率の推移】



【海域のCOD環境保全目標達成率の推移】

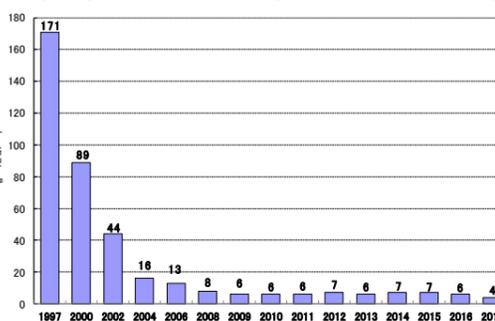
騒音

○道路沿道における環境保全目標の達成率は改善傾向にあり、2017年度は昼・夜間ともに目標値以下の住居等の割合は94.1%である。 ※達成状況は、沿道に立地する住居等のうち、騒音レベルが目標値以下の住居等の割合を推計

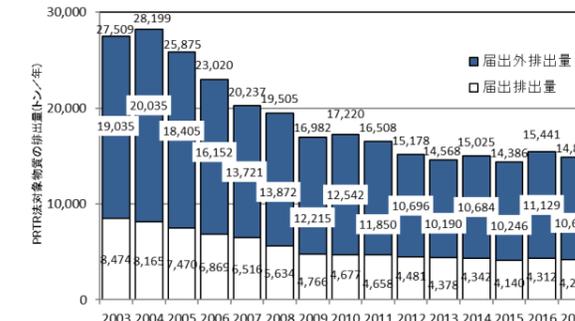
年度	昼・夜間とも基準値以下 (%)	昼間のみ基準値以下 (%)	夜間のみ基準値以下 (%)	昼・夜間とも基準値超過 (%)
2008年度(654千戸)	88.9	5.2	6.4	5.9
2009年度(643千戸)	91.9	3.7	0.4	4.4
2010年度(615千戸)	91.8	3.5	0.4	4.6
2011年度(638千戸)	93.5	2.7	0.4	3.5
2012年度(668千戸)	93.6	2.6	0.4	3.5
2013年度(677千戸)	93.7	2.4	0.4	3.5
2014年度(688千戸)	94.2	2.3	0.4	3.1
2015年度(670千戸)	94.1	2.1	0.4	3.4
2016年度(672千戸)	94.1	2.1	0.4	3.3
2017年度(677千戸)	94.1	2.2	0.4	3.2

化学物質

○ダイオキシン類の排出量は、近年横ばいで推移している。
○化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) 対象の化学物質の排出量は概ね減少傾向にある。



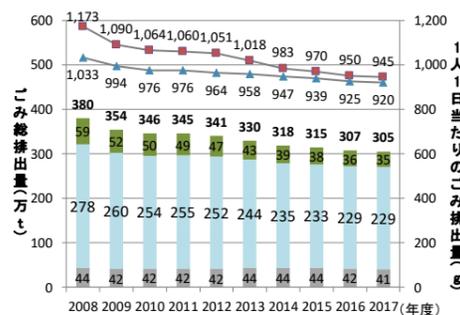
【ダイオキシン類排出量の推移】



【PRTR法対象物質の排出量の推移】 ※全て府域の状況を示した数値である

廃棄物の減量化・リサイクル

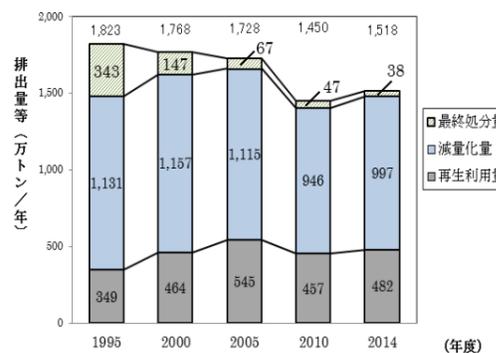
○2017年度の1人1日当たりのごみ排出量は945g/人・日となっており、近年減少傾向にある。



【一般廃棄物の排出量等の推移】

※1人1日当たりの排出量は外国人を含む人口を元に算出
※四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

○産業廃棄物については、2014年度の最終処分量は38万トンであり、2010年度と比べ19.3% (9万トン) 減少している。



【産業廃棄物の最終処分量等の推移】

※四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。